

廃校は資源。未来を創造する場。

演出家・鳥の劇場芸術監督 中島 諒人



1 鳥の演劇祭

毎年9月に演劇祭を開催している。08年が1回目で、毎年継続し本年で11回目となった。東京などでも演劇祭は開かれるが、一定期間の中の散発的上演となりがちで、「祭」としての盛り上がり欠ける。ヨーロッパではフランスのアヴィニョン、イギリスのエジンバラでの開催が有名。いずれも歴史のある観光都市で、街中の教会などが期間中劇場に変わり、街全体が盛り上がる。

鳥の演

劇祭は、規模的には比較にならないが、9月の三週末を中心に町内に複数(今年5つ)の上演会場を構え、海外



上演 鳥の劇場『三文オペラ』

からの招聘団体(今年は韓国、イギリス、アメリカ、中国)も含めて、一日に多くの上演を楽しめる。上演だけでなく、町内の空き家や空き店舗を

使ってショップやカフェが出店し、演劇以外の楽しみも多い。演劇は日本では分かる人だけのための少し特殊な分野とみられている。しかし、鳥の演劇祭は、上演演目の多様さや、関連企画や楽しいイベントの豊富さで、地域の中で広がりを持つようになってきている。

2 鳥の劇場の活動

鳥の劇場は、まずは演劇を創作する劇団としてある。2006年に私が郷里鳥



上演 鳥の劇場『剣を鍛える話』

取に戻り、劇場として活動できる場所を探し、鳥取市鹿野町の使われなくなった小学校体育館と幼稚園に出会った。東京でいっしょに活動していた俳優やスタッフが、地域の中の活動に興味を持ち、多くの人が移住してくれることで活動が本格化した。社会の中で演劇が尊敬され、劇場という場がコミュニティの中心となるのが、当初からの理想であった。だから、創作集団であることを中心に据えながら、地域のため



施設外観



演劇祭劇場エントランス